



筑波大学
University of Tsukuba



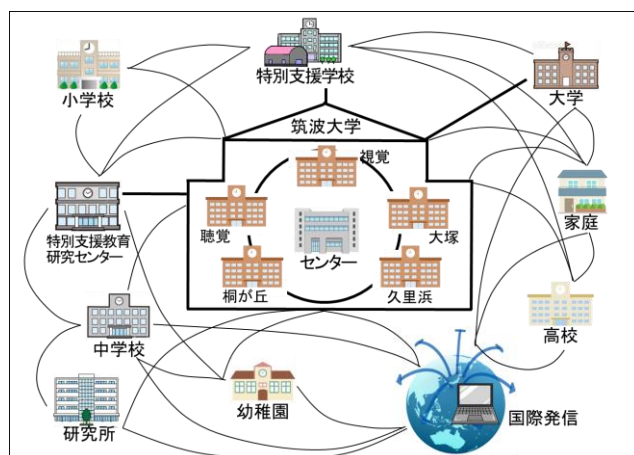
特別支援教育研究センターと附属特別支援学校5校の協働による

筑波大学 特別支援教育 教材・指導法データベース《教材集》

URL: <http://www.human.tsukuba.ac.jp/snerc/kdb/index.html>

筑波大学附属特別支援学校5校の 豊富な指導実践を集約した 新しいデータベース

- ・ボタン選択することで、**障害種別**、**単元・活用場面**による検索ができます。
- ・**フリーワード**による検索ができます。
- ・対象とする幼児児童生徒の**実態**、教材の**ねらい**、**使い方が**詳細に記載されています。
- ・教材**写真**や指導場面**動画**が掲載されています。
- ・**英語版**にも対応しています。
- ・**障害領域に関わらず、学習上の困り**に対する**ヒント**にもなります。



筑波大学特別支援教育研究センター
Special Needs Education Research Center (SNERC)
* E-mail : snerc@human.tsukuba.ac.jp
* HP : <http://www.human.tsukuba.ac.jp/snerc/>

ごあいさつ

筑波大学特別支援教育研究センターでは、平成24年度より特別支援教育に限らず全ての教育活動場面において活用できる教材と指導法に関するデータベースを作成してきました。

掲載されている教材・指導法は、いずれも筑波大学附属特別支援学校5校（視覚、聴覚、大塚、桐が丘、久里浜）で実際に使用されてきたものです。このデータベースに掲載されている教材及び指導法は、一人ひとりの幼児児童生徒の特性に応じて考えられたものです。

利用される方ご自身が、幼児児童生徒の特性にご配慮の上ご利用ください。

筑波大学特別支援教育研究センター

《視覚》

黒い台は光が反射しづらく、眩しくなりません。

* 黒い書見台

眼と対象物との視距離を保持しながら、自然な学習姿勢に近づけます。疲労が軽減され、学習効果が上がります。

知的障害の作業学習や家庭科でも活用できそうです。

* ミシンのガイド

ミシンの安全な操作技術を習得することができます。安全に一人で縫える点が魅力です。

* 触る地球儀

世界の地域や地形を触って、全体像から理解することができます。障害種や障害の有無に関わらず、様々な場面で活用が可能です。

《聴覚》

* 視覚的に学習内容の理解を促す教材

授業中に、教材、教員の口形、手話などを見るための視線の移動を減らすことができ、授業の理解がしやすくなります。

“見せ方”“伝え方”の工夫が紹介されています。

* 大仏の手

実物大を見せることにより、イメージしやすくなり、言葉での確認がしやすくなります。大きさなどの実感を持って理解することができます。

* 写真カード

話された言葉とその意味を結びつけることができます。生活や活動の見通しを持つことができます。

《大塚》

* 音声ペン

言葉を話すことが難しい子供でも、発表したり司会役を務めたり、一人で本を読んだりすることができます。いろいろな場面で活用できます。

附属桐が丘の小学部でも応用して活用しています。

* ビヨーンキャッチゲーム

相手と協力してボールを運びます。ボールの大きさや紐の持ち手、人数などを工夫すると、楽しみ方が広がります。

附属視覚の小学部で、応用して活用しています。

* リペット差し

手指の巧緻性や、形をとらえる力を高める教材です。リペットの大きさや形を変えて、変化をつけることができます。

《桐が丘》

他の学校にも、類似した教材があります。

* 風船打ち練習器

風船を打ちやすい位置にポジショニングすることができます。正確な打法を何度も繰り返し練習し習得する事ができます。

* 透明地図シート

地図の情報を種類別に透明シートに作成し、それを重ねたり分けたりして使います。地図の中から必要な情報を取り出して、見ることができるようになります。

自作することができます。

* 透明筆洗いバケツ

ケースが透明かつ並列に並んでいるので水の汚れの程度が確認できます。右から左、左から右と使用するので手順を覚えやすいです。

《久里浜》

* ロープウェイ

シンプルな道具立ての活動で、ペアでやりとりする遊びです。成果を目で見て捉え、楽しむことができます。

楽しく検温できます。

* きょうのおねつ

体温や体調を色や表情イラストで示すことで、幼児や知的障害のある子供にも分かりやすく伝えることができます。

子供が好きな題材や場面で設定できます。

* 動物園で遊ぼう2

ジオラマで見立て活動をした後に、話したり文章を書いたりすることで、理解を深めることができます。